

第Ⅱ章 地産地消に関する現状

1 農産物の生産状況と農家人口の推移

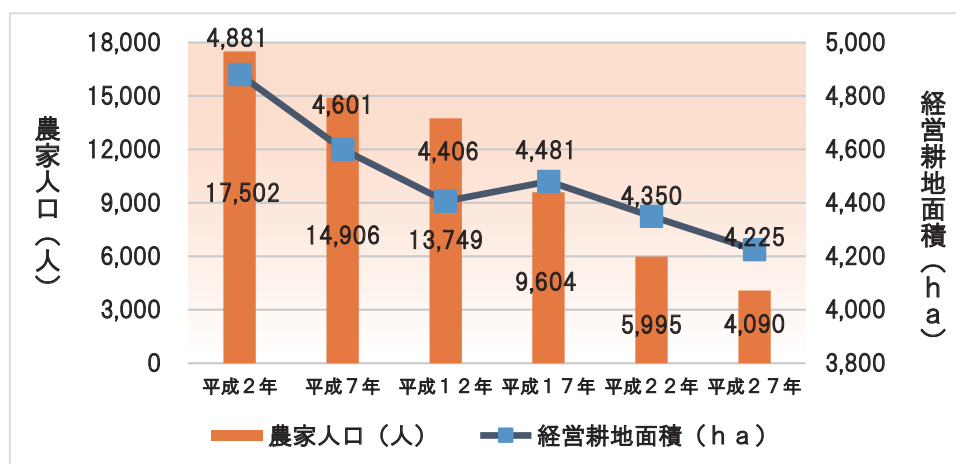
白山市では稲作を中心とした農業が営まれています。その他にも市全域でトマト、だいこん、きゅうりなどをはじめとする多くの農産物が生産されています。一方、生産体制では、農家人口や経営耕地面積が年々減少傾向となっています。

■ 白山市における主な農産物の生産量推移（t） ■

作物名	平成 25 年	平成 26 年	平成 27 年	平成 28 年	平成 29 年
米	19,300	18,400	18,700	18,800	17,900
大豆	939	1,050	1,370	947	1,050
麦	513	522	634	832	949
そば	1	11	12	9	5
メロン	8	9	8	6	5
きゅうり	160	174	202	201	158
だいこん	202	194	165	145	149
トマト	481	491	501	466	482
にんじん	41	78	58	45	41
ナス	20	18	18	21	16
ブロッコリー	18	31	64	62	77
まるいも	5	5	5	8	7
白山ねぎ	40	66	135	168	138
日本なし	470	480	440	398	423

資料：白山市統計書

■ 白山市における農家人口と経営耕地面積の推移 ■



資料：農林業センサス

2 林産物の生産状況と林家数の推移

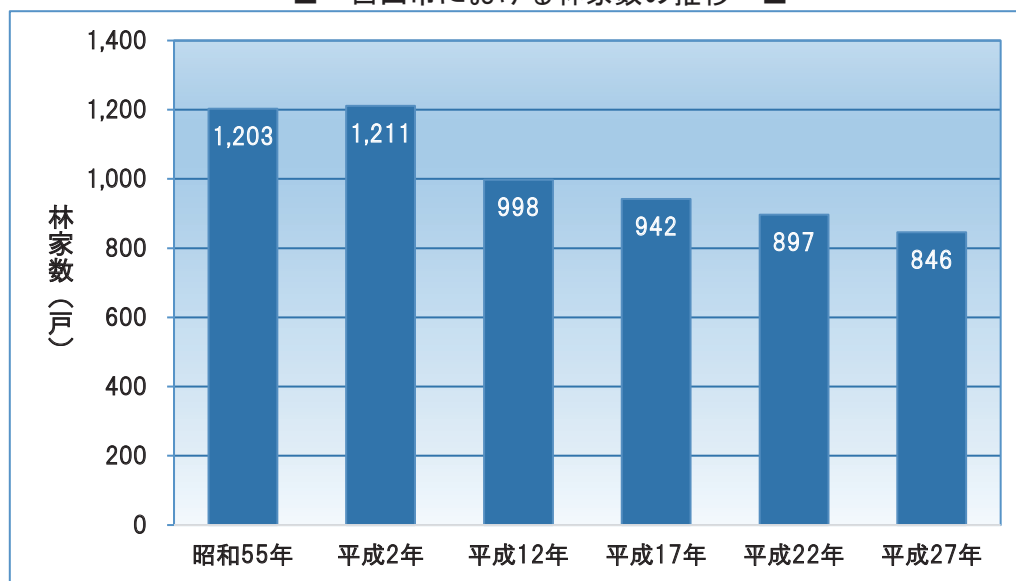
白山市では、キノコ類が主な林産物として生産されていますが、林家数は年々減少傾向となっています。

■ 白山市における林産物の生産量の推移（t） ■

	平成 25 年	平成 26 年	平成 27 年	平成 28 年	平成 29 年
生しいたけ	131.6	132.3	103.7	94.2	101.5
なめこ	41.3	41.2	40.9	24.9	23.0
ひらたけ	3.3	2.6	0.3	0.1	0.1
まいたけ	15.4	15.5	15.6	11.9	8.7
たけのこ	3.2	8.9	2.6	8.7	2.6
その他	1.1	1.4	2.6	8.3	3.0

資料：石川県特用林産物需給動向

■ 白山市における林家数の推移 ■



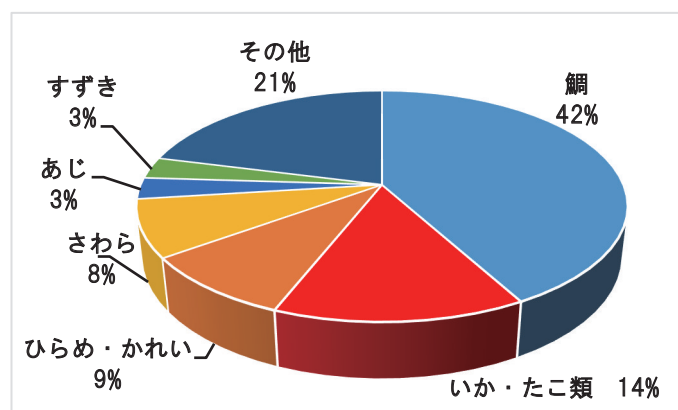
資料：農林業センサス
昭和 60 年、平成 7 年は林家数の調査はされていない

3 漁獲状況と稚魚放流数の推移

白山市の漁業の漁獲高は美川漁港での水揚げが主ですが、平成24年ごろから、それまで多く漁獲されていたアジ・サワラ類の漁獲量が減少したことにより、鯛の漁獲割合が大きくなっています。

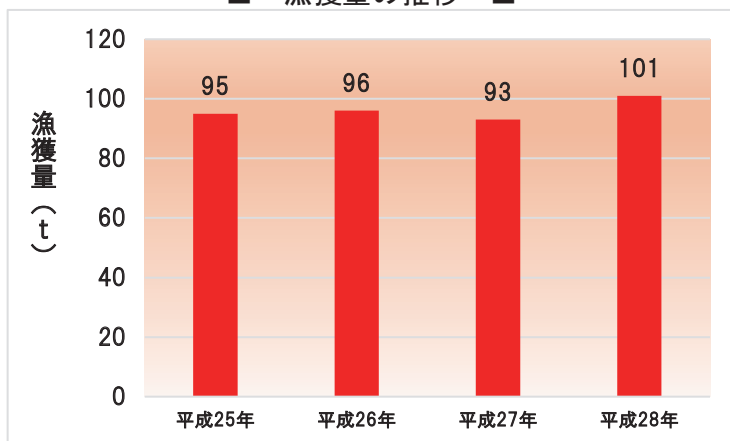
漁業経営体（漁業に従事する世帯または事業所）についても、農業や林業と同様に担い手が減少傾向となっています。

■ 魚種別漁獲量の割合 ■



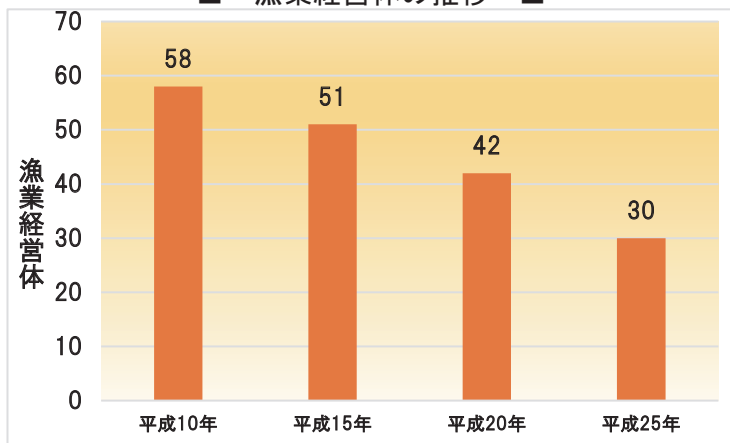
資料：農林水産統計年報

■ 漁獲量の推移 ■



資料：農林水産統計年報

■ 漁業経営体の推移 ■

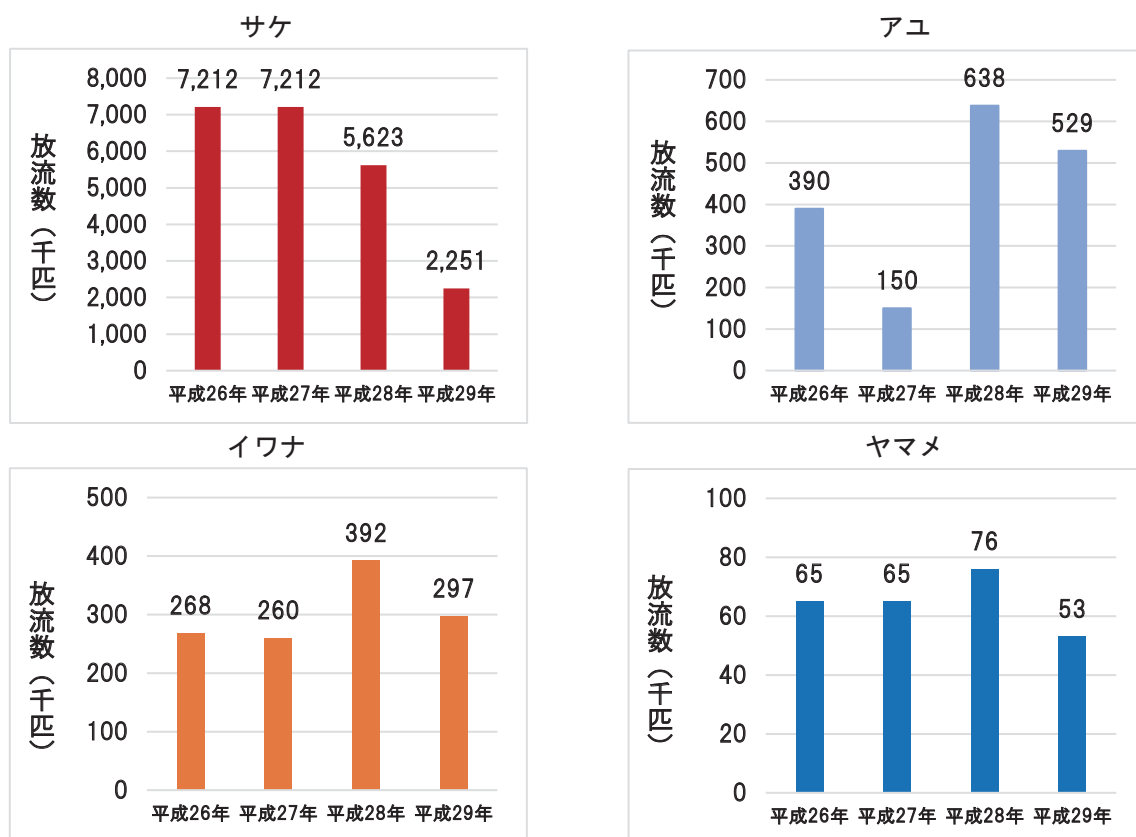


資料：漁業センサス

内水面漁業については、水産資源の確保及び維持のため、また、生態系の保護や生物多様性の観点から、稚魚の放流事業などが継続的に実施されています。

さらに、放流事業は小中学生の体験学習の場としても有効な役割を果たしており、食育活動にも大きくかわかる事業と言えます。

■ 内水面漁業における魚種別放流数の推移 ■



資料：サケは県水産総合センター事業報告、アユ、イワナ、ヤマメは林業水産課調べ

毎年の放流事業の中で、サケについては遡上数の調査が行われています。放流数に対する遡上数は少ないものの、一定の遡上が確認されています。

■ サケの遡上数の推移 ■

資料：白山市統計書



サケの稚魚を放流する児童たち（美川地域）



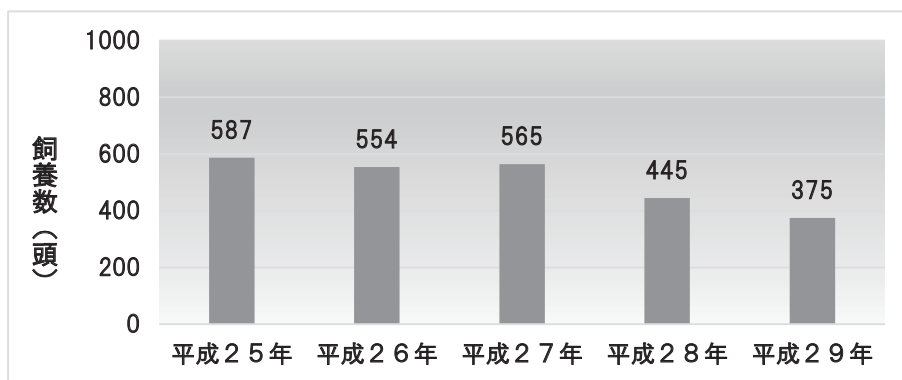
アユの稚魚を放流する児童たち（白山ろく地域）

4 畜産状況と畜産農家数の推移

白山市における主な畜産業は、「乳用牛」「採卵鶏」であり、畜産農家数の減少に伴い、いずれも近年、飼養数が減っています。

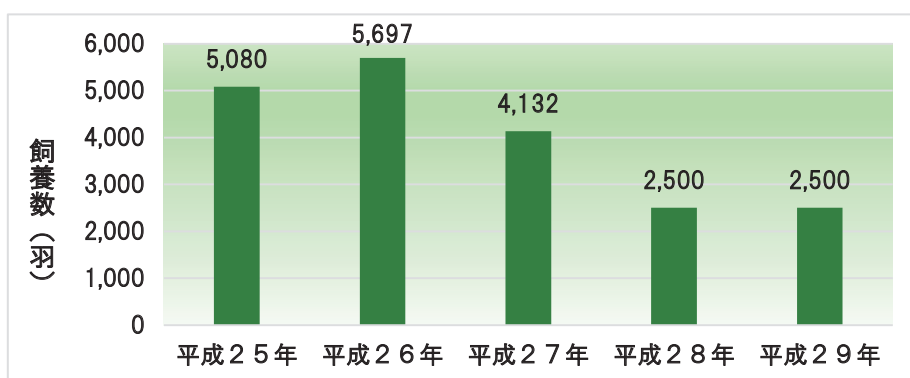
また、白山市内では、「肉用牛」の畜産に取り組む畜産農家も存在しています。

■ 乳用牛の飼養数の推移 ■



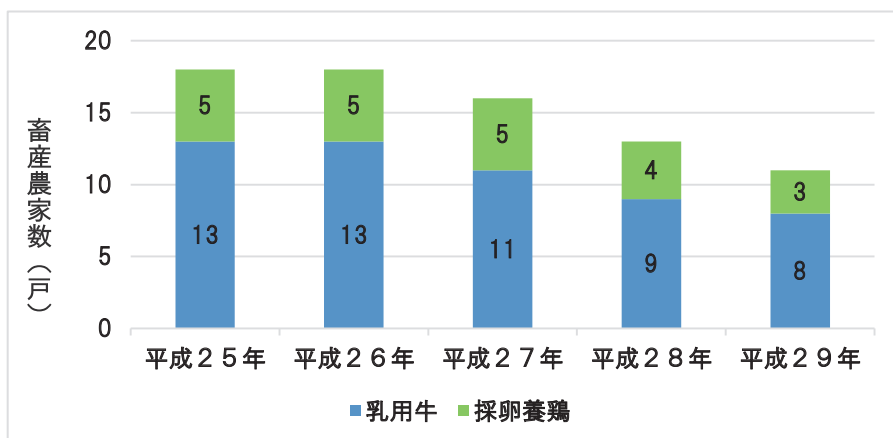
資料：白山市統計書

■ 採卵鶏の飼養数の推移 ■



資料：白山市統計書

■ 畜産農家数の推移 ■



資料：白山市統計書

5 市民意識調査の結果

第3次地産地消推進計画を策定するにあたり、平成21年、26年に続いて、消費者・生産者・飲食店および食品関連事業者を対象としたアンケート調査を実施しました。

アンケート調査の結果からは、消費者に地産地消に関する意識が定着してきていることがうかがえます。また、多くの生産者が地産地消をととして地域が活性化していくことを望んでいることがわかりました。飲食店・食品関連事業者については、白山市内産の農林水産物を扱う直売所で購入する事業者が前回よりも増えています。

●消費者アンケート

- 購入食材の産地については、約9割の方が国内産であることを重要視しており、県内産と白山市産についても、6割以上の方が「気にする」と回答しています。
- 白山市農林水産物ブランド10品目について「いずれも知らない」と答えた方が2割以上にのぼり、また、地産地消推奨店の利用者が4割程度にとどまっていることから、より積極的なPRに取り組む必要があります。
- 消費者自らが地産地消に取り組むために、どのような地元農林水産物をどこで入手できるか、といった情報が求められています。

●生産者アンケート

- 学校給食への出荷に興味がある生産者が6割以上を占めるものの、生産量が少ないため出荷できない方が大半を占め、学校給食での地元食材使用量向上のためにも生産量を増やしていく必要があります。
- 6次産業化に興味がある方が半数近くいますが、多くの方が取り組むことができないとの回答でした。今後、担い手を確保・育成し、生産量を増やすことで、6次産業化を促していく必要があります。

●飲食店・食品関連事業者アンケート

- 地元農林水産物に最も期待されているのは、新鮮さ、おいしさや安全・安心感ですが、価格を重要視しているとの回答も多く、5年前の調査に比べ地元農林水産物の使用については若干下がっています。
- 地元農林水産物を使用できない理由として、価格面のほか、使用したい食材が生産されていないという理由があげられており、ニーズにあわせた生産を行うための情報交換の場が必要と考えられます。
- 地産地消推奨店の制度について、知らないという事業者が半数を超えており、制度の周知と登録の積極的な推進を図る必要があります。